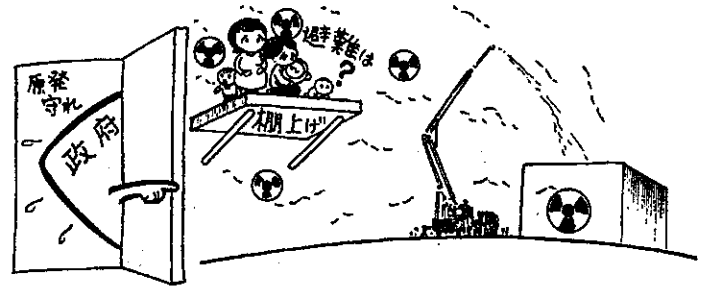


求めよう

福島原発震災 みんなの健康を守るために

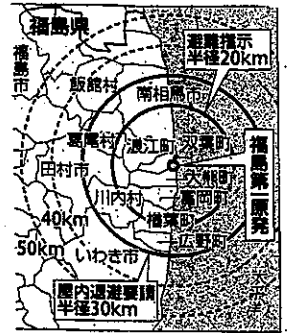
避難区域の拡大を!



高い線量検出地域住民と、妊婦・乳幼児を最優先に!

【緊急に避難区域の拡大が必要】

福島原発から北西40kmにある飯館村では1平方メートル当たり326万ベクレル(京大原子炉実験所の今中氏によると)ものセシウムが検出されました。これは、チェルノブイリ原発事故で強制移住区域に指定する基準1平方メートル当たり55万5千ベクレルの約6倍にも及びます。その上、未だ30km圏内には約一万人が住み、生活しているとみられています(31日読売)。重コンクリートでない屋内退避では、セシウムから出るガンマ線を遮へいすることは殆どできません。



★住民を被ばくから守るため、避難区域の拡大を政府や議員など世間に対しても求めていきましょう。

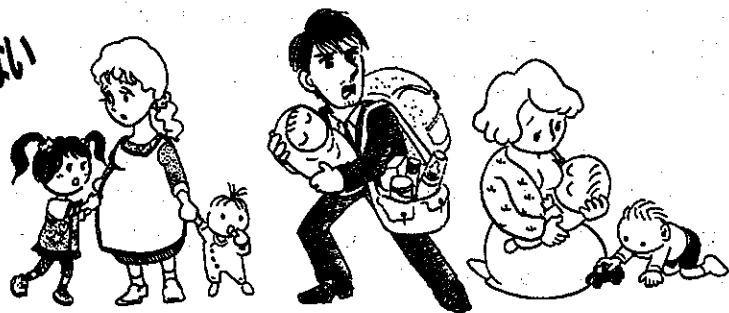
【「放射線を浴びると微量でも健康に対するリスクが高まる」という考え方が国際標準です】

少しずつ浴びると数年後・十数年後に発ガンするなど晩発性の症状があります。「ただちに人体に影響を与えるレベルではありません」この言葉は5年後・10年後のことに触れない言葉です。実は放射能は微量であっても人体に影響があるという「集団被ばく線量」の考え方が国際標準です。「20000ミリシーベルトで1人がガン死する=2万人が1ミリシーベルトを浴びると1人がガン死する」という考え方で、個人的にはではなくガン死のリスクを一人ひとりが背負わされることを表しています。

チェルノブイリ原発事故で大量の放射能がまき散らされました。子どもの甲状腺ガンの増加だけでなく、広大な土地が汚染されたベラルーシ共和国のガン登録データによると成人の甲状腺ガンが事故後5倍に増加しています。また、最も高い汚染地域であるゴメリ市では土壌や食物連鎖の影響もあり、結腸ガン・膀胱ガンなどを含む全ての組織・臓器についての全ガン死亡率がピテプスク市と比べて有意に高いというデータもあります。ゴメリとモギリョフに住む集団ではピテプスク地域よりも15年早く45歳~49歳の年齢層における肺ガンの発症がピークとなりました。

病院で一般のレントゲン(1回0.05ミリシーベルト)は、妊娠可能な女性に対してなるべく撮影しないようにしています。妊娠中ならなおさらです。胎児や乳幼児は細胞分裂が活発なので放射線に対する感受性が強いからなのです。★とりわけ妊婦・乳幼児は避難すべきと求めていきましょう。

原発はもういない



国が責任を持って安全な食べ物を供給すべき

『一般人の1年間の被ばく限度線量は1ミリシーベルト』ですが、17ミリシーベルトを認める厚労省

●「ただちに人体に影響を与えるレベルではありません」については「はっきりしない」と回答 (裏に続く)